

令和7年度官民協働事業レビューにおける意見・評価

事業番号: 8月30日(土)③ 担当部局・担当課名: 教育委員会教育みらい室

事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	評価結果	一部改善
-----	-------------------	------	------

事業レビューにおいて発言のあった主な意見

<p><b>【委員の意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・担い手が不足しているスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）について、無資格者（教員OBなど）へのリスキングや研修といった人材育成・確保の余地があるのではないかな。</li><li>・SSWが対応する時間も限られていることから、LINE相談などと組み合わせ、オンライン面談も考えられる。その場合、オンライン対応できる環境の整備（防音ブースなど）に係る予算化も考えられるのではないかな。</li><li>・SSWの仕事・知識を現場教員に共有し、学びを得ることは重要。また、AIなどのデジタル技術やNPOなどの外部リソースを補完的に活用することを検討すべきではないかな。</li></ul> <p><b>【県民評価者の意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・不登校の児童生徒の居場所は多様化しており、民間施設（フリースクール）との連携がもっとできるようになれば、保護者も助かるのではないかな。</li></ul>
---

県民評価者の評価シートによる評価				県民評価者総数	21
評価区分	行政の関与 不要	役割分担 見直し	抜本的改善	一部改善	現行どおり ・拡充
	1	1	5	10	4 (現行0、拡充4)
県民評価者の 主なコメント	評価結果と 同じ評価	<p><b>【一部改善】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・無資格者のスキルアップや研修の機会を増やすことも考えてはどうか。</li><li>・県や市町村の保健師OBや養護教諭OBへのリクルートを検討してはどうか。</li><li>・ベンチャー企業等と協業するなど、定期的なアンケートを生徒に取って、AIがピックアップした生徒の傾向や情報を担任に提示する仕組みを用意してはどうか。</li><li>・人と人との問題はAIやデジタルだけで対応するのには限界がある。人間が関わるべきところは、その業務に集中できるようにすべき。</li><li>・SSWが社会とのつながりを目的としているのであれば、元教員だけではなく、多角的な視点で民間企業出身の人を採用することも考えられるのではないかな。</li></ul>			
		<p><b>【抜本的改善】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・AIツールを用いてSSWがいじめ等の問題行動の把握をしやすくしてはどうか。</li><li>・スクールカウンセラー（SC）、SSWの相談を実際に行った不登校生本人やその保護者からアンケートをとるなど、相談・支援が問題解決に結び付いているか調査する必要があるのではないかな。</li></ul> <p><b>【現行どおり・拡充】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・NPO法人等を活用してはどうか。</li><li>・なり手不足は否めないが、教員の業務負担の軽減のためにも拡充すべきではないかな。</li><li>・SSWの増員の予算に加え、AI・デジタルの活用のための予算も必要なのではないかな。</li></ul> <p><b>【行政の関与不要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・AIチャットボットによる自己解決やセルフメディケーションを視野に入れるべきではないかな。</li></ul> <p><b>【役割分担見直し】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・国、県をあげて、SSW資格の取得のしやすさの向上（大学で取得可能等）、就職先の創出が必要なのではないかな。</li></ul>			

【参考】委員による評価				委員総数	4
評価区分	行政の関与 不要	役割分担 見直し	抜本的改善	一部改善	現行どおり ・拡充
	0	0	0	2	2

事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	評価結果	一部改善
-----	-------------------	------	------

【事業レビューを受けた県の対応】

今後の 対応方針	一部改善	事業内容の見直し			
	人員不足に対応するため、以下を実施する。 ①人材確保の観点から、報酬単価を改善する。 ②内部研修等により教員やSSWのスキルアップを図るため、スーパーバイザーを設置する。				
令和8年度 当初予算 要求時 の対応	R8当初予算 (要求額)	41,830(千円)	R7当初予算	36,520(千円)	増額 5,310(千円)
	増減理由	報酬単価の増加、スーパーバイザーの設置			

当初予算編成プロセスの見える化

令和8年度当初予算	要求状況	要求額	41,830(千円)		前年度予算額	36,520(千円)
		事業の目的	児童・生徒の置かれている環境へ働きかけて問題解決を図るスクールソーシャルワーカー(SSW)を配置するもの			
		事業内容	①SSWの報酬単価を改善 ②SSWに助言等を行うスーパーバイザーの設置			
		積算内訳	①41,363千円、②467千円			
	予算編成過程における議論など		事業レビューにおける意見を踏まえ、担い手を確保するための報酬増額と併せて、学校現場での即応力を向上させるため、教員やSSWのスキルアップを目的としたスーパーバイザーの配置などの見直しを実施			
	最終的な予算案	予算額	41,830(千円)			
		要求時点からの変更点	変更なし			